

としよかん宇治

No. 4

(発行日)

83. 10. 1

宇 治 市 民 図 書 室

〒611 宇治市宇治里尻71-9

電 話 (21) 4049



「おはよう」 毎日暑いね。ちよっと涼しくなるように、こわしいおはなししましょうね。むかし、むかし、「と、おはなしが始まると、話し手の顔をみつめ、真剣に聞いている子ども達の眼、子どもにおはなしの楽しさを、本との楽しい出会いを、と宇治市民図書室と絵本の会が共催して開いたおはなし会での風景です。子ども達の図書室利用でにぎわう夏休み、おはなし会は3回開かれ、多

い時には33名もの子ども達が、おはなし(ストーリー・テリング)や、絵本のよみきかせ、紙芝居を楽しみました。10分近い長いおはなしでも、姿勢を正し、時には笑い、時にはおはなしの主人公と心をひとつにして悲しみの色を浮べながら聞いている子ども達。「今度はいつあるの?」と、おはなし会を楽しみにしてくれる子ども達の期待にこたえて、今後とも毎月一回、おはなし会を開きます。

子どもをテレビづくりにしたくない、もっと良い本をよませたいという願いから図書室通いをはじめました。足を運ぶ回数が増え、又、図書室主催の読書講演会を受講するうちに、親子共々絵本のファンになりました。そうするうちに図書室の職員の方々とも気易くお話ができるようになり、「絵本の会」というのが毎月一回あることも知り

.....0.....0.....0.....0.....0.....0.....0.....0.....

好きな絵本を持ち寄って、読み聞かせの勉強をするのですが、現在会員数は十名程度で私のような素人の素人から、学生時代児童文学を専攻されていた人、文庫関係の人とさまざまで、絵本が好きだという共通点でつながっています。そのうち、会員相互の読み聞かせだけではあきたらず、子供達を集めてお話し会を、と今回の試みに参加することになりました。プログラムは幼児から小学校の低学年まで楽しめるよう考慮し、子供達もとても静かに、感銘深く聞き入ってくれて、まずは成功であったと自負しています。



絵本の会

池 端 美智子

宇治案内記 案内記

宇治市歴史資料室
若原英弼

何でもよいから、「としよかん宇治」にふさわしいことを、二・三日のうちに書いて欲しい、と頼まれてしまった。

「何でもよい」と言われても、そろそろ老眼になやむ齡を迎えて、辞書を引くにもいちいち近視のメガネをはずさねばならない煩わしさを、身にしみて感じている今日このごろである。短時日のうちに、本腰を入れて調べ直さねばならぬような、骨のある話を書けるはずはない。

そこで思い付いたのが、タイトル通りの奇妙なアイデアである。これまでに見た宇治の名所案内記のいくつかを、ご案内しようということになった次第。これだと、たびたびメガネをはずさなくても済みそうである。

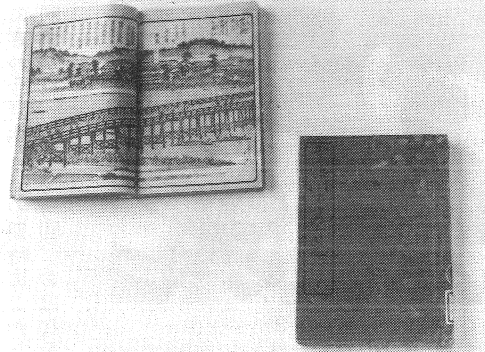
* * *
風光明媚で、名所古跡の豊富な宇治には、古くから遠来の観光客が多かった。そのあたりのことは先刻ご承知の向きも多いだろうが江戸時代から、土地不案内の観光客のために、かすかすの名所案内図や、古跡の説明書が作られてい

たことまでは、あまり知られていないらしい。京都を中心とする広域の案内記は、すでに『京都叢書』に収められている。だからここでは、宇治地方だけを扱った案内記に限定して、話を進めることにしよう。

案内記というよりは、宇治地方誌といった性格をもつものに、上下二冊にまとめられた『兎道旧記浜千鳥』がある。その序文によつて、元禄十年（一六九七）の秋に完成したことが知られるこの力作は、宇治に伝わる最古の地誌である。著者は三嶺守際、宇治妙楽にあった地藏堂宝珠庵の住職で、茶人古田織部と親交あつた宇治茶師長井貞信の孫にあた

る。この書物は、元禄十一年三月三日に起こつた宇治大火以前の、古い宇治のようすを伝える唯一の地誌であり、まことに貴重な存在である。だが、残念なことに、現在に至るまで一度も板行されたことはなく、二・三の旧家などにその写本が残っているに過ぎない。

* * *



この『兎道旧記浜千鳥』にならつて、幕末のころに著わされたのが『宇治旧記』である。全六冊という大仰な書物で、京都大学文学部に影写本が存在することから、広くその名が知られるところとなつた。著者は、茶師の上林清泉らしいと言われているが確かではない。

編集の方針は、おおむね並川五一郎の『五畿内志』（山城誌）にならつたようだが、その内容には先の『兎道旧記浜千鳥』を引用した部分も多い。数葉の挿図を加えて体裁を整えてはいるが、誤伝や誤記も散見する。

* * *
幕末にできた案内記と言えば文久三年（一八六三）に刊行された「宇治川兩岸一覽」上・下が姉妹図書である。「淀川兩岸一覽」とともに名高い。文は松川半山、挿画の筆者は暁晴翁のコンビである。その書名の通り、宇治川を下流から上流へたどつて、沿岸の名所古跡について、それぞれ詳しい解説を加えてある。淡彩を施した挿画も、比較的忠実に描写されて

いるらしい。当時の宇治川の風光が、よく窺えて興味深い。しかし、別の出版物の奥付を貼り込んで、序文にみえる年記よりも刊行年月が先になつていたり、たつた錯乱があり、近年に至るまでこの本の刊年を誤認させていたことなど、版元の杜撰さが折角の好著を損っているのは惜しまれる。

* * *

ところで、かつて小生は『宇治の里独り案内』と題する宇治名所記の筆写本をみたことがある。それには目次がなく、また後半部を欠失していたので、当初の丁数や内容を知ることができなかった。もちろん、その著者も不明であるが、記述の下限からみて、江戸後期の成立であることだけは確実にある。

一読したところ、そこに記された内容には他書にみえない異説が目立ち、すこぶる興味深いものがあつた。そのようなことから、かつて『宇治市史』五・六巻の「習俗と伝承」の執筆にあたつて、そこにこの本の内容を多く盛り込んでおいた。おりにふれて読んでいただければ幸いです。

ここまで書いて、やはり何度もメガネをはずしていたことに気がまつたことをお詫びする。

▽……………△
▽……………△
▽……………△

市民の

なかの

図書館へ



図書館奉仕 ③

「いつでも、だれにでも、もつめられる本をそくぎに」図書館奉仕の基本を支える三つの柱の内豊富な図書資料、身近かに利用できる施設の二つの柱についてはすでに述べました。三つ目の柱は資料や施設を動かし運営していく図書館の直接の担い手、職員です。

—あなたが図書館へ行つて、求める本や情報が見つからない時、どうしますか。—

職員の主な仕事は利用者と図書館の資料とを結ぶ役目、つまりあなたが読みたい本や求める知識、情報が載っている資料を迅速にあなたに提供して、図書館の利用を援助することです。

今日、溢れる出版物、情報と日常生活のスピード化の中で利用者の本や情報に対する要求も軽易なものから高度な専門知識まで多様

化してきています。

利用者に適確な資料や情報源を提供する(これをレファレンス・サービスといいます)ためには職員は利用者の要求を把みながら、その図書館の方針(あるべき姿)にもとづいて計画的に図書を選択購入、整理し、資料を利用しやすいように整備しておかなければなりません。図書館は年月をかけた計画的な資料収集により充実していくのです。

本が利用者の前に並べられるまでの仕事、そして貸出やレファレンスで利用者に満足のいくサービスをするには職員はよく本を知り専門的な知識と技術、及び相当年限の訓練と経験が要求されます。

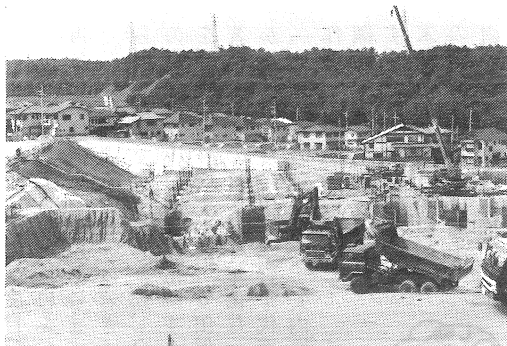
職員が専門性(司書資格)を持つかどうかは図書館の運営に大きな意味を持っています。図書館法等では国の補助を受けて公立図書館を設置する場合、館長は有資格者で一年又は三年以上の実務経験者、最低基準の一つとして人口に対する司書の人数が義務づけられています。

きめこまかい図書館サービス網の整備と豊かな資料とその図書館に適正な数の専門職員が配置されるその知識を生かし、利用者と資料を結びつけ、住民、利用者の要求にこたえていく時、真に住民に役立つ図書館として、市民のなかの図書館となりうると言えます。

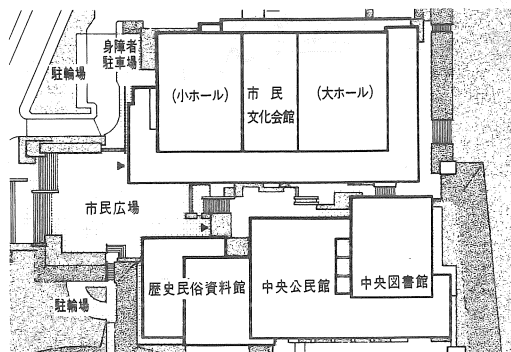
宇治市立図書館

建設のうごき (3)

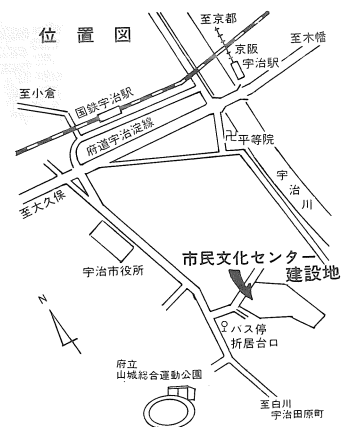
7月に起工式を終え、現在、59年秋の完成をめざし建設中です。



建設現場 (58.9 撮影)



図書館はここです ↑



「雲の墓標」を読んで

半白 山本 明子

八月の声をきくと戦争を思い出すのは戦争を体験した者の宿命でしょうか。この夏読みかえした一冊は阿川弘之の「雲の墓標」でした。この本は一学徒動員兵の日記という形で



吉野という京大の学生が海軍予備学生として入隊し、特攻隊員の訓練を受け出陣していくまでの過程を、同時に入隊した三人の学生仲間の運命と対比させながら描いています。吉野は当時の模範的な学生であり、友人の藤倉は戦争を批判し戦死することを潔しとしない考えを持ちながら事故死してしまうのですが吉野のような万葉集を愛した穏やかな一学徒をも戦死へとかり立てていったのは何だったのかと深く考えさせられました。それは恐らく幼時から植えつけられた誤った愛国心、即ち偏向教育の成果でしょう。明日をも知れぬ生命の瀬戸際に立つ者達の人間性は純情な吉野の目を通して語られているだけにやや淡白に過ぎる感じです。そして

藤倉の方がむしろ作者の本心を語っているように思えました。死地に赴く直前、吉野が友にあてた手紙の中に、こんなに素直に死を肯定する詩が書かれています。

雲こそ吾が墓標
落暉よ碑銘をかざれ

このような青春を若者達に押しつけない為に、今、私達は何をなすべきなのか、真剣に考えたいと思います。

秋色の前に

伊勢田 山本正太郎



秋。草花の咲き揃う季節と共に読書週間が始まる。早いもので私が図書室を訪れたのが五十三年の週間中の一日でした。以来厚かましくも、月間十冊前後新旧刊とりまぜて借読して感謝致して居ります。

秋 です

最初に宇治へ居を移して二十余年、まずは、宇治市史全巻。五十六年四月、第六巻が完了。漸く宇治の成り立ちから今日までの事実を相知る事ができ、うれしく思っています。

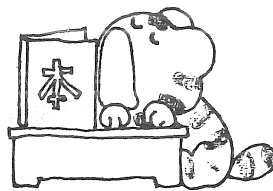
折りにふれ、史跡や神社仏閣の説話等を認識して訪ね歩いて居りますが、この間、開架式の書棚を

あちこちと探求して、文芸、伝記随筆等々拝借してその都度自分のノートに記して居り、折にふれて再読して拝借する事がありません。

「琵琶湖周航の歌」は若き頃から口ずさんで居りましたが、発想の事項等、小口太郎氏に関する事を詳細に知り得たのは、安田保雄著によるものです。今年になってから拝読したのは、宇野千代著、「或る一人の女の話し」、矢内原伊作著「古寺思索の旅」、網淵謙鋭著「極」等です。「極」は、明治の末期四十五年日本最初の南極探険行、白瀬中尉の不屈の精神を描いた難行苦行の物語です。また、仁和寺貫主である立部瑞祐氏の自伝「心の旅路」は今だに心に残るものがあります。

未だ未だ開架式の書棚から持出して、心の糧になる書を求める次第です。

読書 です



申し訳ない気もするが、蔵書構成に一役買っている(？)と思わせていただいている。

そんな私が読み返す度に励まされるのが伊藤雅子さんの「子どもからの自立」です。出産と同時に退職。双子の子育てに明け暮れ、専業主婦となって初めて感じた不安や孤立感。主婦って何だろう、こんなに母子ベッタリでいいのだろうか、と思い始めた時に出会ったのがこの本です。現代の主婦、とりわけ乳幼児を抱えた若い主婦をとりまく問題状況について分析し、いかにこの時期が自分自身にも子どもにとっても重要であるか説いている。そして、「子どもを育てることが大事だからこそ、母親も精一杯生き、どのように生きるか、成長するかということこそ、子どもにとって重要な意味をもつのではないか」と問うている。その後、私自身が公民館保育室に子どもを預け学ぶ機会を得て、多くの人に出会ったが、その中からどんな自分がひきだされるか、そしてどのように地域社会に還元できるのかこれからの課題です。

「子どもからの自立」と私

五ヶ庄 辻

康子

「どんな本を読んでいるの？」ときかれると困ってしまう。いろいろと気が多く、読みたい本を図書室で買っていただくことも多い。

ベビーカーに乗せてそよ風号に通っていた二人も今は三才半となり、その子供達が今では図書室の絵本をととても楽しみにしています。



新

刊

案

内

黄檗樹ーきはだぎー

東山 緑著／関西書院

一切大蔵経を翻刻し、苦難にみちた鉄眼の一生をつづった書です。ひとりの破衣僧の乞食とよばれ、狂僧とののしられ、石を投げられても托鉢行脚にあぐれ、その志を曲げなかった五十三年の生涯。七顛八倒すること五十三年／妄りに般若を談じて／罪犯天に弥る／華藏界に優游して／水中の天を踏破す

キリシタン弾圧の時代、刻蔵にうちこみ、飢餓に苦しむ庶民の救済に力をつくした鉄眼の心をよぎるものは何だったのでしょうか。黄檗山萬福寺の黄檗樹を通して著者は鉄眼の姿をかいまみます。

タクアンかじり歩き

妹尾河童著／朝日新聞社

この本は「タクアン」に関する紀行文のかたちをとっています。「タクアン」を通してみる日本の食文化史といえます。舞台芸術家として知られる著者の軽快な文章と、独特のスケッチが調和して読みやすく、又読みすすむほどに、「タクアン」の香りが漂ってくるようです。私達の食生活に切り離すことの出来ない盛りだくさんの「タクアン」の本です。

パナンペのはなし

谷川俊太郎詩／瑞木書房

森村 玲画

アイヌの村にパナンペというのんびりした男とわがままな殿様がいました。ある日、不思議な声でなく小鳥がパナンペの口に飛び込み、それ以来パナンペはおならの名人になります。うわさが広まりご殿に呼びつけられたパナンペは「うらん」といきむのですが…。「なんとたるこったすったった」と、詩も版画も楽しい絵本です。

びわ湖ー自然と人間ー

富山和子文 講談社

徳田秀雄絵

わが町を流れる宇治川の源、びわ湖。私達はびわ湖について何を知っているのでしょうか。この本はびわ湖が私達の歴史にどんな役割を果たしてきたか、第二にその歴史を支えてきたのは誰か、第三にいまびわ湖は、私達の生活にどう結びついているかの三視点を基本にすえて、びわ湖のもつ重い意味を解きあかした本で、頁ごとの挿画も楽しく、子どもから大人までおもしろく読みながら、この本一冊で深くびわ湖を理解できます。著者には、他に「川は生きている」などの好著があります。

図書室

あんない

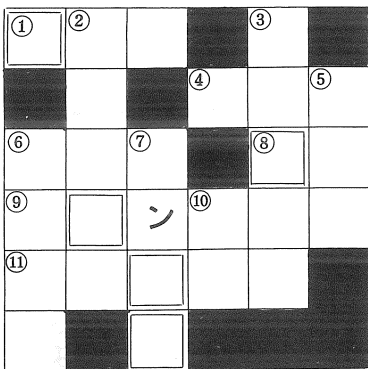
- 開室時間 午前9時～午後5時
- 休室日 毎週月曜日 毎月末日 国民の祝日 特別整理日 12月28日～翌年1月4日 =土曜日もあいてます 日曜日もあいてます=
- 貸出 本の貸出しは1人2冊以内。貸出期間は2週間です。

食欲の秋

スポーツの秋

そして□□□□の秋

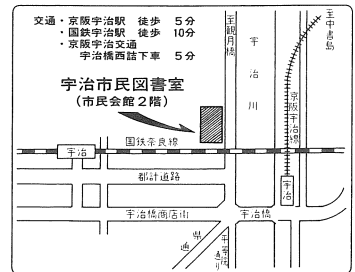
あそひましょ



〔ヨコのカギ〕

- ①「優しさごっこ」の作者は○○○祥智。
- ④○○○の木の下で〜
- ⑥○○○無違反。
- ⑧南極物語、タロと○○。
- ⑨「かっぱ かっぱ らった」は谷川○○○○○○
- ⑩寄り道せずに行き帰り。

- 〔タテのカギ〕
- ②じょうよ。酒。田舎。こんどはお茶がこわい。
- ③「兎の眼」「太陽の子」は灰谷○○○○○○の作品。
- ⑤野口君／羽仁君／前田君／
- ⑥夏休みはがんばったよね。網とカゴもって。
- ⑦○○○○、来月、再来日。
- ⑩○○が言うのよ。八郎さん。



読 書 週 間

読書は新しい発見の旅

10月27日～11月9日

《小学校1～4年生の子どもをもつおかあさんへ》

子どもと読書を考える連続講座

本を読んでいる子どもの楽しそうな顔……。

子どもは、その時未知の想像と冒険の読書の世界を旅していて、豊かな心と成長の糧をもちかえります。

おかあさんと一緒に楽しんだ絵本の世界を経て、より広い読書の世界の門をたたく時代——小学校1～4年生の子どもと読書について、考えあってみませんか。

お気軽にご参加ください。

・講師：本と子どもの会々長

吉井善三郎さん

(中学校教師生活 35年)

(現在 帝塚山短大講師)

日 程	時間	場 所	テ ー マ
1 9月26日 (月)	1:30	宇治市 公民館 第1会議室	子どもに読書の よろこびを!
2 10月3日 (月)		〃	読書力をつける には?
3 10月7日 (金)	3:30	宇治市 公民館 3階 大会議室	すすめたい本と 選び方。

・申込 各講義日の前日までに宇治市民図書室へ(定員30名)

☎ 21-4049 番



灯火親しむ季節となりました。毎年好評をいただいている読書週間記念講演会を今年も下記のとおり開催いたします。今回は、詩人であり日本文学の研究等幅広い活躍をなさっている相馬大氏の講演です。多数の参加をお待ちします。講演会は無料です。

● テーマ

「宇治の花と源氏物語」

講師 相馬大氏 (詩人)

日時 10月31日 (月) PM 2時～4時

場所 宇治市公民館 (市民会館)

(3階大会議室)

〈相馬大氏の主な著作〉

「あるく京都」・「北山杉の里」
「京都散歩のあと」・「京の古道」
「京のわらべうた」・「京洛花ごよみ」
「草花遊び」・「四季の草花あそび」
「日本伝承の手づくりの遊び」
「花の文化史」・「わらべうた」
「花源氏物語」・「花平家物語」
「花万葉集」・「平家物語の風土」
「花のある寺 京都」・「花のこころ 京都」
他。

「おはなしかい」の ご案内

子どもたちにお話の楽しさや絵本のおもしろさを味わってもらいたくて、月一回「おはなしかい」を開いています。プログラムは、4才～8才の子どもたちを対象に「おはなし」「読みきかせ」「紙芝居」などです。

・とき 10月12日(水)
午後3時30分～4時

・ところ 第二和室
(図書室の奥の部屋)

11月以降も市政だより等でお知らせしますので、来てくださいね。

(編) (集) (後) (記)

読書週間が間もなくやってきますが、秋の夜長はどんな風にお過ごしでしょうか。「秋だから、こうなった」という感じで、じっくり読書なんぞはいかが。

でも、天気の良い日はハイキングも素敵。若原先生に紹介してもらった「宇治案内記」を片手に、ぶらっと出かけてみるのも乙なものです。新しい発見があるかも……。